

目的 今日の母親は子育てに関する情報の氾濫 家族をめぐる諸状況の変化の中でより良い保育の在り方 母親としての生き方を追求している。本研究においては、幼児の保育に日常的に関わっている母親が母グループ活動の体験を通してどのように意識を変化させていくかを明らかにし、また母親にとって幼児グループ活動がどのような意義を持つのか考察する。

方法 母グループの実践活動観察記録 活動後の話し合いの記録 テープ 連絡帳等の分析により考察する。なおここでは特にⅠ.合同活動における役割分析Ⅱ.分化活動における話し合い、役割分担 製作活動 行事への関わり方等を取りあげて考察する。

結果 Ⅰ合同活動においては、行為を媒介とする意義の変革がもたらされる。Ⅱ母グループの分化活動①話し合い(課題: しつけ けんか 幼稚園選択 連絡帳)では、日常生活での母子関係の具体的な課題を意識化し、課題を内的に発展させる。②心理劇による活動では、ふるまい方の可能性③集団運営に関する役割分担(司会・記録)では集団活動の発展に必要な機能的役割④製作活動(絵本・文集づくり)では、物と子どもの関わり的重要性⑤行事(クリスマス・お店屋さん)では、子どもグループの発達と、より豊かな情操の育成などを意識化する。母親がこの幼児グループ活動に参加することの意義としては、共に育つ関係が育つ。自集団意識の育成。自発性。創造性の開発。個と集団の統合的発展がもたらされる等をおげることができる。そして保育に関する日常的な課題を様々な角度から捉えなおし、主体的、創造的に課題に取り組み関わっていく保育実践の方法を養成することができる。